

フレッシュトーク

モットーは「自然」

富田開登 (高68回)

東京藝術大学音楽学部音楽科2年

●とみた・かいと
阿南町出身。東京藝術大学音楽科在学中。趣味は将棋と読書、散歩。将来は、海外でプロとして歌を歌いながら、指導や講義、本の執筆などをしていきたいと考えている。



僕は小さい頃から音楽の道に進みたい欲がありました。しかし音楽高校には進みませんでした。中学生の私は多くの選択肢から「音楽」だけを選ぶ勇氣と覚悟を持ち合わせていなかったのです。音楽への道は一旦持ち越しにし、「数学の教師になりたい」という目標を半ばいい加減に作って飯田高校に入学しました。その一時凌ぎの目標は高校2年生まで持ち堪えましたが、そこでようやく音楽への欲を諦めきれない自分が優位に立ちます。高校2年の秋から大学入試まで音楽漬けの日々が始まりました(皆がペンを懸命に走らせる中、正解のない音

してくれる人々が集まるということが大きくあります。逆に、自分のアイデンティティを焦って獲得しようとする和不自然さが生まれてしまう気がします(個性を衝動的、断片的に求めてしまうと、結果その考えや行動に一貫性がないのでますます自分らしさが分からなくなる、といった文章をどこかで読みました)。

「自然」という言葉に辿り着いたきっかけは声楽にあります。声楽の発声では専門的に、腹式呼吸、母音純化、声区融合、鼻腔共鳴などのあるテクニクがあります。日々試行錯誤をしながらそれらを獲得していくわけですが、たとえ獲得できたとしても(獲得したと思っ

ていても)、一度その声が「自然であるか」を客観的に吟味する必要性を感じています。声楽を始めた頃に陥りやすいのは、プロの声楽家の声を表面的に真似してしまうことです。まだ声楽を始めたばかりの子供の体で大人の声を表面的に真似することは負担も大きく、とても不自然な声色になりやすいのです。僕も声楽を始めた高校2年生でそれに陥り、自分の大好きだったバリトン歌手の声色をとことん真似して満足感を得ていました。しかも、毎日盲目的にその真似を繰り返していたせいで、自分の不自然な声色に気付くのに9か月もかかりました。それに気付いた

楽という教科一筋で毎日が過ぎていくのはなかなか不安であり、孤独でした)。

芸大入試は3回の試験から成っています。その期間20日程のストレスは尋常ではなく、周囲の支えがなければ精神的にかなりキツかったと思います。そして、3月12日の最終合格発表に自分の受験番号を見つけてようやく一安心できました(その後も住居探しと引越準備で必死でしたが)。

芸大に入學すると、「あなたは音楽だけに集中していいんですよ」という空気を感しました。それは音楽一筋に絞った自分に自信を与えてくれる重要な要素だったように思います。同じ境遇の友にも出会い、数多くの真新しい体験をして、この1年間はあらゆる「新しい自分」を獲得できた年でした。これが現在までの簡単な流れです。受験生にはひとつの参考にして頂ければと思います。本題に入ります。題名にもある通り、僕のモットーは

「自然」です(モットーという言葉で自分を制限したくはありませんが、わざわざこうして宣言するには理由があります)。服装、態度や振る舞い、発言などあらゆる物事において僕は自然さを心がけるようにしています。このモットーの利点は、まずひとつ目に自分自身が楽になるということ。ふたつ目にありのままの自分を受容



声楽科の陽気な仲間たち

時の衝撃、ショックは凄まじく、後にそれが「最高の気付き」であったことを認識したので。それをきっかけに自身の声を客観的に見つめ直し、原因や対策、自然さの追求を具体的にこなしていくことができました。

こうして得た声楽での気付きはあらゆる物事において自分を客観視すること(メタ認知)の重要性を教えてくれたのです。どうしても自分の欲ばかりに誠実でいると、メタ認知を忘れ、本質を忘れ、自然さを欠いてしまいます。日々その「最高の気付き」に立ち返ることを習慣化するために、僕のモットーは「自然」である、と宣言したいと思います。